

高等学校 令和8年度 教科

情報

科目 情報Ⅱ

教科： 情報

科目： 情報Ⅱ

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 6 組 第 3 学年

教科担当者： (1～3組：宮本) (4～5組：宮本) (6組：高橋良彦)

使用教科書： (情報Ⅱ (東京書籍) 30時間でマスター Word&Excel2021 (Windows11対応) (実教出版))

教科 情報 の目標：

【知識及び技能】情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

科目 情報Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
多様なコミュニケーションの実現、情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報技術の発展と社会の変化について理解を深めるようにする。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用する力を養う。	情報と情報技術を適切に活用するとともに、新たな価値の創造を目指し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	microsoftアプリケーションの利用 ・ wordを用いた文書の作成、保存 ができる	・ wordを用いて定型文書を作成する。	・ wordを正しく用いる。[知]	○		○	4
	情報社会の進展と情報技術 ・ 情報技術の発展と生活の変化を理解する。 ・ 情報技術が進歩し、情報システムがさまざまな分野で活用されていることを理解する。 ・ 情報システムによる情報の流れを体験し、理解する。	・ POSシステムを調べ、情報の流れを体験し、理解する。 ・ 不正アクセス、情報漏洩などの具体的な事例を調べる。	・ 情報システムとそれを実現している情報の流れを理解する。[知] ・ 情報システムの活用と、社会への影響を考えている。[思]	○	○	○	8
	アルゴリズム ・ アルゴリズムの基本構造を学習する。 ・ フローチャートの記号について理解し、正しく読めるようになる。 ・ 論理的思考力を確立する。	・ アルゴリズムの基本構造、フローチャートについて理解する。 ・ アルゴリズム、Scratchの復習を行う。	・ アルゴリズムの基本構造について理解している。[知] ・ Scratchで簡単なプログラミングができる。[知]	○	○	○	4
	プログラミング ・ 情報システムを開発するうえで大切なプログラムの書き方を学習する。 ・ アルゴリズムとプログラミングの関係性について理解する。 ・ 開発環境の存在や使い方を学習する。	・ Scratchの復習 ・ Pythonを用いて簡単なプログラミングを行う。	・ Scratchでプログラミングができる。[知] ・ アルゴリズムとプログラミングの関係性について理解している。[知] ・ Pythonで基礎的なプログラミングができる。[知] ・ 難問にあきらめずに取り組もうとしている。[主]	○	○	○	5
	人間の知的活動への影響 ・ 人工知能やロボットなどの情報技術と生活の変化を理解する。 ・ 身近な情報システムや人工知能の影響などの問題について学習する。 ・ 機械学習と人工知能についてデータの分析手法の進化から学習する。 ・ サポートベクターマシンについて学習する。 ・ ニューラルネットワークや深層学習を知る。	・ 12 機械学習と人工知能 [p. 86] ・ 実3 人工知能と仕事を考える [p. 6]	・ 人工知能やロボットなどの情報技術の利点と課題を考えることができる。[思] ・ データの分析の手法の進化を理解できる。[知] ・ 教師あり学習と教師なし学習の違いが理解できる。[知] ・ サポートベクターマシンがどのようなものか理解できる。[知] ・ 人工知能、機械学習、深層学習の関係を理解できる。[知]	○	○	○	5
定期考査			○	○		1	

